

苦小牧市教育委員会会議録

会 議 区 分	苦小牧市教育委員会 第 5 回 定例委員会
日 時	令和2年4月23日 自 15時00分 至 15時35分
場 所	第2庁舎1階会議室
出席委員	教 育 長 五十嵐 充 委 員 佐 藤 郁 子 委 員 植 木 忠 夫 委 員 齋 藤 智 子 委 員 岡 田 秀 樹
欠 席 委 員	
会議録署名委員	齋 藤 智 子 委員
会議録作成職員	総務企画課主任主事 武 曾 真 弓
事務局職員	教 育 部 長 瀬 能 仁 教 育 部 次 長 山 地 吉 明 教 育 部 次 長 齋 藤 貴 志 教 育 部 参 事 池 田 健 人 教 育 部 参 事 桑 島 久 典 学 校 教 育 課 長 神 保 英 士 総 務 企 画 課 主 査 矢 部 妙 子 学 校 教 育 課 学 務 係 長 佐 藤 純 哉 総 務 企 画 課 主 任 主 事 武 曾 真 弓
会 議 案 件	別紙のとおり
会議の経過概要	別紙のとおり

1	委員会開会の宣言（五十嵐教育長）・・・15時00分
2	会議録署名委員の指名（齋藤智子委員）
3	会議録の承認
	（五十嵐教育長） 第4回定例教育委員会（令和2年3月27日開催）の会議録について、このとおり調製することとしてよろしいでしょうか。
	（一同「はい」の声）
	-会議録どおり承認-
4	教育長の報告
	（五十嵐教育長） まず、学校の状況についてですが、新型コロナウイルス感染症対策に関して2月27日から3月24日まで市内小中学校を臨時休校とし、児童生徒をはじめ、保護者、教職員には大変な苦勞をかけました。新年度に入り、学校は一旦再開されたものの、第2波とも言える感染拡大を防ぐため、4月17日、道教委の要請を受け、4月20日から5月6日までの期間を再び休校とし、同日、学校、保護者にその旨通知したところです。本来であれば委員の皆様のご意見を伺った上で通知すべきところですが、学校の準備、保護者への周知等を考えての対応でありましたことをご理解いただきたいと思います。
	4月19日に市内在住者の感染が報告されましたが、幸い、市内の児童生徒、教職員に感染者は発生しておりません。決して気を緩めることなく、できる予防対策を

しっかりと講じた上で、学校生活を少しずつ元に戻していきたいと考えているところです。こういう時だからこそ、明るく笑顔で子供たちと教員を支えて行かなければならないとも思っております。改めまして、ご理解とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

4月1日付の学校教員の人事異動に関して、ウイルス感染のリスクを考慮し、私からは校長17人、教頭18人に対して辞令交付を行い、一般教員の異動、採用については、各校長から辞令を渡してもらいました。また、委員会事務局の異動については、学芸員の採用1人を含む18人でありました。

前年度末で、多くの職員が教育委員会を去り、また、多くの職員を迎えて新体制がスタートしております。異動は個人にとっては自己研鑽の機会となり、組織にとっては職場に新しい風を送ると同時に組織改革を進める絶好の機会になるものと期待をしているところでございます。

4月4日未明、北海道教育委員会教育長佐藤嘉大さんが急逝されました。新型コロナウイルス感染拡大防止対策では、道内公立学校の一斉休校などで陣頭指揮を執っており、道内の全教育長を集めて数回行われたテレビ会議では、各地域から出される様々な意見の調整を精力的に行っていた姿が思い出されます。私自身、昨年の教育長就任以来、何度か直接お会いし、話をする中で、温和な人柄を感じる一方、リーダーとして人を引き付ける力のある方だとの思いも強く持っていたところでした。本当に惜しい人を亡くしました。残念でなりません。心からご冥福をお祈りいたします。

4月7日、8日に行われた各小中学校の入学式については、例年、各教育委員にご参列いただいているところですが、今年は新型コロナウイルス対策の影響で来賓の出席を見合わせる事となりました。そうした中、各学校においては規模縮小や時間を短縮するなどして入学式が執行され、年度始めの諸行事も進み、新年度の学校経営に入ったところでしたが、先ほどお話したとおり、今週から臨時休校となり、学校行事なども延期や中止を余儀なくされるなど非常時対応が続いている状況です。

4月9日に令和2年度第1回胆振管内教育長会議が胆振教育局で開催され、出席し

てきました。山上局長から、冒頭の挨拶で、新型コロナウイルス対応で各市町において、卒業式・入学式を工夫して開催したことに対する感謝の言葉がありました。また、「オール胆振で教育効果の高い学校づくり」を推進テーマとする「令和2年度胆振管内教育推進の重点」が説明されたほか、GIGAスクール構想に基づく教育ICT化整備の今年度の申請と、胆振管内の女性管理職割合が道内最低である現状と今後の女性活躍推進の重要性について強調していました。

4月14日には、岩倉市長の出席を得て新年度第1回の校長会議が開催されました。委員の皆さん、出席ありがとうございました。来賓の退席後、私からは令和2年度の教育行政執行方針について説明をしましたが、新型コロナウイルス対応で時間短縮を図りながらの会議となりました。

4月16日に転入校長研修会が開催され、転入7名、採用1名、合わせて8名の校長に、「苫小牧市と苫小牧市教育の現状と課題」と題して、教育行政の課題について説明しました。限られた時間ではありましたが、各校長の自己紹介の中で本市との関わりについて話を聞かせてもらいました。本市の事情を理解している校長が多く、安心して学校を任せられることができると認識したところです。

昨年度は、道立特別支援学校の開校決定や第2学校給食共同調理場改築の進捗など、市教委が抱えていた大きな懸案が前進した年でありました。令和2年度は、開始早々、新型コロナウイルスという姿形の見えないものとの闘い、過去に例を見ない対応が求められる事態となっていますが、そうした中におきましても、4人の委員の皆様と常に情報を共有し、共通の認識のもと、課題の解決を図ってまいりたいと考えております。本年度もどうぞ、よろしくお願いいたします。

報告は以上ですが、何かご質問等ございませんか。

(一同「なし」の声)

5 議 案

第1号 苫小牧市立小中学校設置条例の一部改正について

(教育部長) -苫小牧市立小中学校設置条例の一部改正について説明-

(五十嵐教育長) 質疑に付します。何かございませんか。

(一同「なし」の声)

(五十嵐教育長) 質疑がないようであれば、原案どおり決定することよろしいでしょうか。

(一同「はい」の声)

(五十嵐教育長) それでは、議案第1号は原案どおり決定いたしました。

6 報告・協議

協議(1) 令和2年度教育部の課題について

(教育部長) -令和2年度教育部の課題について説明-

(五十嵐教育長) 会議時間短縮のため、個別質疑については次回の委員会で行いたいと思いますがよろしいでしょうか。

(一同「異議なし」の声)

(五十嵐教育長) それでは、協議第1号「令和2年度教育部の課題について」の質疑は次回の委員会で行わせていただきます。
(一同「はい」の声)
報告(1) 市内小中学校一斉臨時休校等について
(教育部長) -市内小中学校一斉臨時休校等について説明-
(五十嵐教育長) 質疑に付します。何かございませんか。
(植木委員) 運動会等の中止とか、1学期に行われる予定であった宿泊を伴う行事等については2学期に延期ということですが、新型コロナウイルスについては長期化が想定されるという観点から、文部科学省も道教委も指針のようなものを出すのではないかと思います。かわいそうという気持ちが半分と、実施した場合に大変なことが起こりうる可能性がかなり高いという気持ちです。宿泊を伴う行事の中止を含めて、市教委として代替案を持っていないとは思いますが、ぜひ検討をしていただきたいと思います。よろしくをお願いします。
(五十嵐教育長) 市教委としての今後の方向性を備えておくということで検討したいと思います。その他に何かございますか。
(齋藤委員) 前回の休校の時にも質問したんですが、ご家庭によっては学校に来ることによって健康な生活を保っているお子さんもいらっしゃると思います。前回は分散登校して登校日に児童生徒の状況を確認するということがあったんですが、今回は分散登校がないということで、担任の先生がご家庭にお子さんの状況を確認する手立てを何かお考えでしょうか。
(教育部参事) 3月の時の休校と今回の休校とでは国内、道内の状況が違うので、

今回は分散登校をすることによる感染リスクについても考えて、行わないことに決めました。一方で、子供たちの心のケアや遅れてしまう学習について、各校の担任の先生からこまめに電話連絡やお便りを出すといったことを行うよう、指示を出しております。

(佐藤委員) 様々な学校行事の実施について、各学校において十分に検討された上で決めることだと思うんですが、校長判断について市教委はどの程度関わっていくのでしょうか。最終的には市教委の判断になり、判断基準等によって校長がお決めになると思うんですが、学校の規模によっても変わるでしょうし、実施するところとしないところの差も出てくると思いますので、その判断に対して市教委はどの段階で関わっていくのでしょうか。

(教育部参事) 市内一斉に足並みを揃えてという部分は資料の1番や2番なんですけども、学校の規模や状況が違うので、それぞれの学校の状況を学校長が判断してくださいというのが3番なんです。例えば、徒歩遠足であれば距離や目的などについて、どうしても子供たちのために必要な行事であるのかと安全性を天秤にかけるとか、家庭訪問であれば通常のものではなく必要に応じて行われるものもありますので、そういった必要性を校長会の先生方と話をしながら、どうしても必要なものについては行うこととなります。集会や参観日についても各教室に対する人数、例えば体育館であれば100人という人数を大きく超えるような集会とか、参観日であれば子供たちは大体40人よりも少ない人数で学習しているので、その40人を大きく超えるような参観日の在り方については当面見送るという話をした上で、それぞれの学校の実情が違いますので、そこは判断してくださいという話をさせていただきました。

(佐藤委員) 校長先生のご判断だと思うんですが、校長先生の方からこのようにしたいという話が市教委に上がってきた後のことについて伺ってまして、教育委員会を開くのかということです。校長先生も児童数や生徒数、周りの環境のことなんかを考えてご判断されると思いますが、そのことについて校長判断のみでやっていいのかというのがご心配なところだと思います。教育長判断になっていくと思うんですよね。

<p>(教育部次長) 3番については、この通知のとおり、あくまでも学校長の判断で決めるべきところということで、問い合わせがあれば捉え方の指導はしますが、決定に関して教育委員会でということではなく、学校に預けているものです。</p>
<p>(佐藤委員) 先生方も十分にご承知の上ということなんですね。</p>
<p>(五十嵐教育長) 前段で指導室と校長会役員の方たちで事前に詰めて、大筋のところの了解を得た上で今回の通知に至っているところです。</p>
<p>(植木委員) 大筋は今のお話で十分だと思いますが、3密を避けようと言われてい る中で、例えば参観日のある校長は実施し、ある校長は危険だと思って中止にしたと いったことが起こった場合に、市教委として各校長だけの判断に任せておいていいの でしょうか。常に行政の側で考えておかないと、市としての一貫性が問われるのでは ないかと思いますので、もう少し煮詰めて検討していただきたいと思います。</p>
<p>また、新型コロナウイルスのことで仕方がない面もあるんですけど、子供たちの学ぶ 権利を大人として保障できていないんですよ。短期間で収束してくれればよいと 常々思っているんですけど、仮に学習できる状況になった時に長期休業を短縮する等 の手立てを行政側でも持っていないと、校長判断という訳にはいかないと思います。 学校でしか学べない子供たちもたくさんいますので、これだけ長期間で休校していま すし、長期休業を短縮しても保護者の方に理解してもらえらると思いますので、そうい ったことも併せて検討しておいていただきたいと思います。</p>
<p>(齋藤委員) 今すぐにとということではなく、また同じような事があった時に子供た ちが勉強できない状況に追い込んでいいのかと。この経験を生かさなければなら ないと思うんですよ。公立の学校なので予算の面等があって、私立の学校のようにイン ターネット上で授業をする等をすぐにできるようにするのは難しいと思うんですけど、 色々な手立てがあるはずなんですよ。将来的にこういったことが起きることを想定 して何か手立てを考えないと、また同じような事が起きた時に休校して子供たちが勉 強する機会を奪われるということがないように備えが必要だと思いますので、皆様 のお知恵を合わせてご検討いただけたらと思います。</p>

(岡田委員) 長期の休校が続いているので、生徒達が学習面で努力しているところ
を正しく評価するといった面でも配慮していただきたいと思います。
(五十嵐教育長) 委員の皆様から提言をいただきまして、休校期間が延長された場
合、あるいは収束したとしても今後同じような事があった場合の準備について、市教
委としても怠らないようにしていくということかと思えます。
その他に何かございますでしょうか。
(一同「なし」の声)
(五十嵐教育長) ないようであれば、質疑を終結することとしてよろしいでしょう
か。
(一同「はい」の声)
7 その他
(五十嵐教育長) 次に、その他でございますが、事務局、委員の皆様を含めて、何
かございますか。
(一同「なし」の声)
8 委員会閉会の宣言 (五十嵐教育長)・・・15時35分